

16. ^{99m}Tc -PMTによるHepATOMA転移巣の検索(その2)
—骨スキャン, ガリウムスキャンとの比較
検討—

伊藤 清信 外山 宏 竹内 昭
富田 和美 鶴飼起久子 古賀 佑彦
(保衛大・放)
前田 寿登 江尻 和隆 (同・診放技)
加藤 幸彦 清水 和弥 榊原 英二
(同・放部)

hepatoma 転移巣の検索に ^{99m}Tc -PMT, ^{99m}Tc -MDP
骨, ^{67}Ga による全身シンチグラフィーを施行し, 6症
例30病巣について比較検討した。

^{99m}Tc -PMTシンチグラフィーは骨, ^{67}Ga シンチグラ
フィーと比べ, 検出率に優れており, hepatoma 転移巣
検索に有用であると思われる。

検出率の差は, ^{67}Ga はbackgroundによる影響, 骨
シンチはturnoverの低いbone metastasis等が関与し
ていると思われる。

PMTに関しては, backgroundとの重なりにより検
出されないことがある。

17. ^{99m}Tc -DMSA腎シンチグラフィーによる術前腎機
能評価—腎部分切除術を施行した腎機能低下患者
の2例—

日置 琢一 桜井 正樹 奥野 利幸
加藤 貴裕 川村 寿一 (三重大・泌)
北野外紀雄 (同・中放)

反対側腎に腎機能障害を有する腎細胞癌症例で, 拡大
腎摘出術を施行すると腎不全をひき起こすと考えられた
2例を経験した。この2例に対し術前に ^{99m}Tc -DMSA
腎シンチグラフィーを施行し, 部分切除後残存すると考
えられる腎部に関心領域を置いてその腎摂取率から術後
残存腎機能を予測した後, 腎部分切除術を施行した。そ
の結果, 術後1か月の時点では腎摂取率予測値が実測値
を上回ったが, 術後3か月以上においては実測値の10%
以内の誤差で予測でき, 腎不全を回避しえた。

^{99m}Tc -DMSA腎シンチグラフィーは術前腎機能評価
に有用であると思われる。

18. ^{99m}Tc -HM-PAOによる原発性肺癌の検出について
—病理との対比—

大島 統男 伊藤 健吾 岡江 俊治
田所 匡典 佐久間貞行 (名大・放)
児玉 行弘 (小牧市民病院・放)

年齢38~82歳(平均66歳)の原発性肺癌17例に対し
 ^{99m}Tc -HM-PAO(HM-PAO)を施行した。HM-PAOの
集積パターンはhomogeneous, heterogeneousおよび
defectであり, 癌の組織型とは相関を認めなかった。手
術にて摘出可能であった5例の肺癌とHM-PAOの集積
パターンとの対比では, HM-PAOでdefect, ^{67}Ga では陽
性を示した2例では, 腫瘍組織はほとんどnecrosisによ
りおき変わっていた。またHM-PAOでhomogeneous,
 ^{67}Ga でも陽性を示した3例では, 腫瘍組織はviableな
腫瘍でnecrosisを認めなかった。このように ^{99m}Tc -
HM-PAOは腫瘍が血流に富んでいるか否かを知ること
ができ, 放射線治療, 化学療法, 温熱療法など治療法
の選択の際, 参考となり得る。

19. TI-201 SPECTによる胸部X線異常陰影の質的
診断

利波 紀久 秀毛 範至 横山 邦彦
絹谷 清剛 松成 一朗 滝 鈴佳
瀬戸 幹人 滝 淳一 渡辺 直人
道岸 隆敏 油野 民雄 久田 欣一
(金沢大・核)
渡辺 洋宇 (同・一外)
関 宏恭 (金沢医大・放)
高山 輝彦 (金沢大・医短)

肺癌が疑われた54例にTI-201 chlorideを8~10 mCi
静注し15分後(Early scan)と3時間後(Delayed scan)
にSPECTを施行した。原発性肺癌40例を含む肺悪性腫
瘍44例のうち43例に異常集積を認めた。良性病巣10例
中7例には異常集積は認められず, 集積を認めた3例で
はDelayed scanの病巣/対側健常肺摂取比や病巣の集
積停滞Indexで悪性腫瘍との鑑別の可能性が示唆され
た。また, これらの指標は原発性肺癌の組織型において
異なった傾向を示した。